

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995



2024～2025年度 №309

9月報

那須クラブ会長 主題

ユースと共に那須YMCAの活動を探る



強調月間：EMC

今月の聖句 ヨハネによる福音書 12：32

わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう。

9月第1例会（エルム福祉会の働きを学ぶ）

日時：9月27日（土）午前11時30分～

場所：hikari no café 蜂巣小珈琲店

大田原市蜂巣295 電話 0287-54-2255

内容：大田原市を中心に多岐にわたる福祉事業を展開されているエルム福祉会の働きを、エルム福祉会の常務理事であり、蜂巣小のゼネラルマネージャーである、川上聖子（しょうこ）さんを招いて、エルム福祉会の働きについて学びます。

司会 副会長 田村 修也

会食

開会点鐘・挨拶

会長 村田 榮

ワイズソング齊唱

ワイズの信条の齊唱

ゲスト・ビジター紹介

会長

聖書朗読・祈祷

司会者

エルム福祉会の働き

常務理事 川上聖子

質疑応答

報告事項 YMCA・ワイズ

YMCAの歌

閉会挨拶・点鐘

会長 村田 榮

会費 メン・メネット 2,000円

ゲスト1,000円

申込は村田(090-9095-4035)まで。〆切 9月24日(水)

食事は、蜂巣小珈琲店でランチをいただきます。

2025～2026年度 主題

国際会長：(IP) エドワード・オン（シンガポール）

『信念、愛、行動』

アジア太平洋地域会長：(AP) 田上 正（熊本むさしクラブ）

『信念と愛を持って行動しよう！』

東日本区理事 (RD)： 山下 真（十勝クラブ）

『ワイズのらしさ再発見』

北東部長： 三田 康平（もりおかクラブ）

『ユースと共に明るい未来を』

クラブ役員

会長：村田 榮
副会長：田村 修也
書記：藤生 強
会計：鈴木 保江・村田 榮
担当主事：武田 将吾
ブリテン：田村 修也・村田 榮

8月例会データー（出席率：100%）

メンバー6名、メネット2名、ビジター2名

ゲスト4名、（広義会員1名）

メイキャップ

9月 Happy Birthday

6日 武田将吾メン

19月例会（アジア学院収穫感謝祭）

日時：10月18日（土）・19日（日）

場所：アジア学院 広場

北東部大会（北東部フォーラム）

日時：10月4日（土）午前11時～午後5時

場所：コラッセふくしま401会議室

11月役員会（第2例会）

日時：10月19日（日）

場所：アジア学院 広場

卷頭言

藤生 強

①私の勤務するY.M.C.A特養マイホームきよはらの新型コロナ状況報告第11弾

今回は2024年度後半から2025年度前半までの報告となります。2025年2月に感染クラスターが発生しました。いつものようにゾーニングなど感染対策を行い、感染者が少なかったこともあり、約2週間で終息しました。

2020年1月に日本国内で初めて感染者が確認されてから5年半経ち、ワクチンの無料接種も終了して1年半が経ち、街中ではマスクをする人がめっきり少なくなりました。私自身もコンビニなどではしなくなりました・・・。とは言え、高齢者にとって怖い病気であることには変わり有りません。『新型コロナは終わっていない!』と肝に銘じて、感染対策に気を付けたいと思います。

②万歩計をつけました

私事ですが、ひと月ほど前から万歩計をつけて、1日の歩数を計るようにしました。万歩計はホームセンターにて2,000円程度で買った「歩数を計るだけ」のものです。今はスマートフォンのアプリとして万歩計機能はありますが、仕事中に持ち歩く習慣が無いので、単機能でも常につけていられるものが「はじめの一歩」にはちょうどいいのです。

厚生労働省の「国民健康・栄養調査報告（令和5年）」によると、1日あたりの平均歩数は男性が6,628歩、女性が5,659歩、とのことです。そして自分の年代（50～59歳）の男性は7,504歩だそうです。では私はどの位歩いているのか。私の主な仕事は事務作業のため「今日はデスクワークが多かったな」という日は4,000歩台、「物品の納品業者や設備等の修理業者の対応に追われたな」という日は6,000歩台でした。万歩計は出勤の時に「出勤から帰宅まで」の数値であり自宅での歩数は含まれていませんが、それを考慮しても平均歩数よりちょっと少ない感じです。ちなみに、生活習慣病を防止して健康を維持するためには1日あたり8,000歩～10,000歩程度歩くのが良いそうです。目標は遙か遠く・・・です。とは言え自分の実態（歩数）を知ることで、「どう歩数を増やしていくか=健康維持」を考えるきっかけとなりました。



8月例会（納涼例会・河野姉のナイチンゲール紀章受賞祝会）於：原田ワイズ宅 2025.8.20

8月例会(納涼・河野姉のナイチンゲール紀章受賞祝会)報告

日時：2025年8月20日(土)午前11時30分
場所：原田ワイズ宅
出席者：田村、村田、原田、藤生、鈴木、武田の各メン、田村、村田の各メネット、山田夫妻(宇都宮クラブ) ゲスト4名：計14名

夏恒例の『納涼例会』及び「フローレンス・ナイチンゲール記章」を授与された河野順子さん(元那須ワイズメンバー)の『受章祝賀会』を、原田メンのご自宅を会場に、昼食を頂きながら行いました。



河野さんが受章された「フローレンス・ナイチンゲール記章」はフローレンス・ナイチンゲールの生誕

100周年を記念して1920年に第1回の記章授与が行われた歴史あるものであり、各国の赤十字社等が赤十字国際委員会へ候補者を推薦し、審議・選考を経て、2年に1度、フローレンス・ナイチンゲールの生誕記念日である5月12日に最大50人の受章者を決定していることです。日本では第1回から第50回(2025年)までに計118名の方が「フローレンス・ナイチンゲール記章」を受章しており、河野さんは第50回(日本から3名受章)の受章者となりました。

同記章は、「生涯を通じての称賛に値する功績や業績の積み重ねを顕彰することを主眼とするものではなく、他に例をみないほどの献身的な活動や行為に對して授与するもの」とのこと、河野さんは『病院を退院した後も住み慣れた地域で必要な医療が受けられ、最期まで尊厳のある一人の人間として自分らしく生活できるように、現在の地域包括ケアにつながる「退院計画」のための多職種・地域連携、在宅医療推進に向けた地域の受入れ体制の構築に取り組んだ』功績が認められ今回の受章となりました。

例会では、受章理由である『地域が連携して退院後の患者を支える体制整備に向けた功績』についてお話しさされました。また7月31日に行われた授与式の舞台裏について、「授与式には家族など20名まで招待が出来たこと」「式典のリハーサルが何度もあり、招待した家族とゆっくり話す時間がなかったこと」「皇后さま(雅子さま)よりナイチンゲール記章を胸に着けて頂いたこと」などお聞きしました。また例会には授与された記章の「普段着用ブローチ」を胸に着けており、とても素敵でした。私たちの仲間

の素晴らしい功績にとても誇らしく思いました。

河野さんのお話の後は、恒例の田村メン指導の「レクリエーション」を行いました。田村メンが広告紙を使って作った「紙飛行機の飛行距離競争」「紙鉄砲の大きく鳴らす競争」を行いました。ちょっとしたレクですが“ボランティアリーダー”になった気分で楽しみました。

※「フローレンス・ナイチンゲール記章」についての報告内容は、日本赤十字社HPより引用・参照しました



例会の中で、西那須野教会で12月に行われる、星野富弘アート展に對して、いつもお世話になっている西那須野教会に20,000円の献金をいたしました。

第2例会(役員会)報告

日時：9月18日(木)午後4時30分～
場所：田村会長宅、

出席者：田村、村田、武田各メン、田村、村田メネット

1. 9月例会について

9月27日(土)に行う。場所は、hikari no cafe 蜂須。昼食をとり、その後エルム福祉会のお話を聞く。会場の予約等は、田村副会長に依頼。エルム福祉会に10,000円の献金をささげる。

2. 10月例会について

アジア学院の収穫感謝祭に参加する。10月18日(土)・19日(日)の両日。準備会は、17日(金)の午前10時から田村副会長宅にて行う。

3. シイタケ昆布の購入について

個数の確認をして注文をする。

開拓と信仰の姿「開拓と西那須野教会」-(11)

副会長 田村 修也

話を元に戻します。明治43年(1910)那須野が原は土質のせいか、小粒だが澱粉質の多い馬鈴薯が生産されました。それに目を付けた弥三郎さんは、澱粉製造会社を設立して、製品は銀星と銘打って売り出しました。弥三郎56歳の時でした。資料によりますと、常務理事 田島弥三郎、千坂高節、理事 渡辺金平 牧野伊三郎となっています。

当初は順調に行くかのように見えましたが、大手企業との競争には太刀打ち出来なかったそうです。

写真資料には大正3年の初荷の記録があります。中央馬車上でハンチングに手をかけているのが、組合長の弥三郎さんです。その後この工場は大正5年頃に解散し製粉工場に転換しましたが、経営は大変だったようです。二区地内の加治屋堀に沿って作られていた工場跡地には、標柱が立てられていますので今でもその跡地を確認することができます。一時はコンニャク玉の栽培とコンニャクの製造をしたことあるといいます。上州人らしい思い付きだと書かれています。

弥三郎さんは、次から次へと新しいことに突進して行きましたが、その多忙のなかにあっても、キリスト教の伝道は忘れなかったといいます。「我が信仰告白」として、弥三郎さん自筆で書かれた信仰告白があります。

明治41年、弥三郎54歳の時には推されて、西那須野村助役に就任し、明治45年5月には、58歳で西那須野第5代村長に就任して、64歳の大正6年まで重責を担うと共に、那須疏水水利組合の管理者に就任して那須野が原開拓の根幹を支える大役を担うことになりました。この大役は長男の董さんに受け継がれていくことになります。なお、弥三郎は地域の方々と共に、養蚕組合や肥料共同組合の設立等地域の発展に取り組んでいます。

なお、西那須野町農会は明治32年に公布された農会法に基いて創立されましたが、農会長は行政機関との緊密な関係を保つために、村長の品川貞之進が就任しております。弥三郎は江川福松の後を継いで第3代農会長として、明治45年から大正6年まで在任しております。この経緯は長男の董さんが8歳の時、昭和38年に発刊された西那須野町史の中に詳しく書かれてあります。

大正3年には水田灌漑に地下水利用を考えて、那須疏水を原動力として水車による地下水のポンプアップを始めました。当時はポンプの性能も、動力源も充分でなく、成功はしませんでしたが、この夢は昭和30年代になって電力による地下水利用として順次実現してゆきますが、その魁となりました。失敗には終りましたが、この時の貯水池は西の池と呼ばれて、夏ともなると近所の子供たちも毎日遊びに来て、体が黄色く染まりそうな泥水を気にもかけずにひねもす水遊びをして楽しんだそうです。

大正8年、弥三郎65歳の夏に静岡県御殿場にあるY.M.C.A東山荘で開かれた、夏季修養会に出席して杉山千波さんと出会っています。その時のことを董さんは教会史の中で「大正8年夏、御殿場東山荘において、夏季修養会が開かれ、杉山はこれに出席した。たまたま、この教会から、田嶋弥三郎が出席し、兩人はからずも会談の機会を得た。弥三郎は、

那須野が開拓地として物心両面に涉って、人材を要するを説き、移り来たって、新天地の開拓に、教育と宗教の両面から活躍するよう勧誘説得し、千波もかねてから那須野に心ひかれていたので、遂に意を決し、老父母はしばらく故郷に残して、那須野の人になったのである。」と記されています。

(以下次号へ)

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園

認定こども園 西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光夫

「神は聖なる宮にいます。

みなしごの父となり

やもめの訴えを取り上げて下さる。

神は孤独な人に身を寄せる家を与える

とらわれ人を導きだして清い所に住ませてくださる。」(聖書 詩編 68編6節-7節)

先日、「地域共生社会に向けた認定こども園の役割～これから多機能を考える」というテーマで開催された全国認定こども園協会のセミナーを受講しました。

このセミナーで強調されていたのは、特に地方においては、従来の幼稚園・保育園・認定こども園の単独機能では、将来的に廃園を免れないという現実でした。国はこれまで、「どこでもすべての子どもに質の高い保育を提供する」という、いわゆる“護送船団方式”を探ってきました。しかし、今後はその方針を転換し、「大海に放り出し、後は各園の努力に任せる」という方針に変わりつつあります。具体的には、今のうちから学童クラブや児童発達支援、介護サービスなどの多機能化を進めるべき、という提言です。

本園では、2000年頃から特に意識して、「インクルージョン・コミュニティ（包括的地域共生社会）」という視点から、多機能化を少しずつ進めてきました。しかし、各園の努力だけでは限界があります。それは、市町村ごとの政策や国による地域区分による格差が大きいのです。持続可能な地域共生社会の実現に向けて取り組むなかで、「もし本園が大田原市にあったなら」と感じることもしばしばあります。今後は、こども・子育て会議を中心に、市長・市議会議員・行政が一体となって取り組むべき、喫緊の課題だと考えています。

今回の研修で特に印象に残ったのは、慶應義塾大学経済学部の駒村康平教授による発題でした。内容は、「20代女性の健康、特に精神・行動面での障害の高さ」(国立健康危機管理機構、2025年*1)

と、「逆境的小児期体験(ACE)」(*2)の影響についてです。「ACE」については、NHK・E テレで5月19日(月)・20日(火)に「成人後も続く生きずらさ」が放送され、19日には ACE 経験者による体験談と現在の取り組みが紹介されました。その番組で、本園のホールでの活動の様子も映ると連絡を受けて、私は「ACE」について知ることができました。

駒村教授は講演のなかで、以下の4点を指摘されました。

- 1.ACE は、健康面や精神面に深刻なダメージを与える。
- 2.がん、糖尿病、認知症のリスクを高め、年間医療費を3,300億円押し上げる原因となっている。
- 3.ACE の世代間連鎖（虐待された親は、自身の子どもを虐待するリスクが、虐待経験のない親と比べて3倍高い）。
- 4.ACE の解消には、全人的な社会保障と、子ども時代のアタッチメント（愛着）形成の重要性が不可欠である。

アタッチメントについては、以前本園でも「ルーマニアの捨てられた子どもたち」の事例を通して伝えてきました。また、過去にイギリスの統合型施設チルドレンセンターを訪問した際には、被虐待児には園でソーシャルワーカーがケアに当たり、親には別のソーシャルワーカーが対応しているとの説明を受けたことが印象に残っています。

このような経験から、全世代的な社会保障の構築、特に乳幼児期の支援が、人生全体や次の世代にまで影響を及ぼす重要な取り組みであると、改めて実感しました。

〈註1〉「勤労者における長期病休発生の実態調査」(2025)

国立健康危機管理研究 機構

〈註2〉ACE: Adverse Childhood

Experiences

〈註2〉こども時代に受けたマルトリートメント(身体的・性的・精神的虐待、ネグレクト)、家庭内暴力(親同士の暴力)、親の薬物依存、貧困、暴力・犯罪の目撃、暴力の驚異など



この訳語がよいかどうかは別にして、私達日本の民生に、この訳語は深く根を下ろし、戦後日本のスローガンの一つに、福祉国家の建設が掲げられて久しいのです。

福祉国家とは、民生が安寧で、ひとりひとりが満足できる状態で、そのためには古来、飢え、貧困からの解放があり、これは政治の要諦であります。つぎに、孤児救済、発疾者、重病者、老衰者の救済事業があります。現在の、児童福祉、医療福祉、障害者福祉、老人福祉の原型です。

しかし、種々の百科事典をひいてみて分かることは単なる「福祉」という言葉は、索引からは出て来ません必ず「社会福祉」という項になっています。つまり、「福祉」とは、「社会福祉」のことなのです。

この「社会福祉」の定義としては、社会保障制度審議会（総理大臣の諮問機関、昭和二十三年設置）の、昭和二十五年に行った「社会福祉制度に関する勧告」の中の、次の定義が最も妥当であると言われています。すなわち、「社会福祉とは、国家扶助（公的扶助と同義）の適用をうけている者、身体障害者、児童、その他援護育成を要する者が、自立してその能力を発揮できるよう、必要な生活指導、厚生補導その他の援護育成を行うことをいうのである。」

私の属して居る栃木県精神薄弱者育成会の上部団体、全日本精神薄弱者育成会（別名手をつなぐ親の会）では、永年の間「重い者には保護を、軽い者には自立を」をスローガンに、運動してきました。その成果の一つが、前述の「精神薄弱者福祉法」であります。

こうした施策の推進によって、憲法第二十五条の、「すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」という規定が生かされて、文化国家建設の、基盤が確たるものになるのです。ここに、「福祉」と「文化」の強い相関があります。

そもそも「文化」とは、科学技術（あるいは文明）、思想、文学、芸術等の分野における果実の、生活者による享受のことです。『那須野原』の読まれるこの地域の文化とは、この地域に住んでいる一人一人が、その生活について誇りを持ち、その独自の文化が生まれるのであります。そのためには、この地域における福祉の充実が絶対に欠かせません。

文化 culture とは、耕す、教化する、cultivate ということばと、語源が同じといわれています。私達の心が耕され、洗われて、崇高なるいは人間的な有価地の状態であってこそ「文化であり、これは「福祉」における心の問題と同根です。私達は、私達の住む那須野原を、文化不毛の地にしないためにも、この「福祉の心」を耕していかねばなりません。私も、この小さな一翼を担っていることを誇りに、

障害者福祉の基本的な考え方と方向② 榆井一俊

Welfare も、well→well は良いことであり、じょうぶな健康なことであり、満足して居るよい状態でありますし、fare は、成り行き、運命などの意があり、welfare は幸福、安寧、福利、繁栄を意味します。

自負している次第であります。

一匹と九十九匹と

聖書の中のマタイによる福音書第十八章に、「迷い出た羊」のたとえがあります。

『あなた方はどう思うか。ある人が羊をろ百匹持っていて、その一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか。はっきり言っておくが、もし、それを見つけたら、迷わずにいた九十九匹より、その一匹のことを喜ぶだろう。そのように、これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない』

（榎井一俊著 以下次号へ）

YMCAだより

【サマープログラム宿泊キャンプを行いました！】

YMCAのサマープログラム（野外教育事業）での夏も宿泊キャンプを3本行いました。猪苗代湖の畔で3日間過ごした「ふくしま湖畔キャンプ」、土呂部の山奥で自然に囲まれて過ごした「日光ほしそらキャンプ」、年少～小2を対象にした「さしまチャレンジキャンプ」を実施しました。どのキャンプも笑いあり涙あり感動あり。2日や3日のキャンプ生活を通して、子どもたちもリーダーも大きく成長できた夏となりました。



【とちぎYMCA・那須YMCAの9月の予定】

- ・9/5（金）-7（日） 第37回東日本YMCAユースボランティアリーダーズフォーラム(@富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ)
- ・9/14（日） YMCAキッズ9月活動
- ・9/20（土） とちぎYMCA野外クラブ（小学生）9月活動（クラフト）

ユースリーダーのつぶやき

- ①本名（リーダー名）
- ②学校名 学部なども
- ③出身地
- ④YMCAに入ったきっかけ
- ⑤思い出に残った活動とその理由は？
- ⑥今後の進路は？
- ⑦YMCAに一言



- ①小貫仁菜（さ一も）
- ②国際医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科
- ③栃木県大田原市
- ④野外クラブやYMCA等 子どもたちと一緒に様々な体験ができますことに興味を持ったからです。

- ⑤新1年生チャレンジキャンプ 野外炊飯や山登りなど自分も初めての事を体験できたアットホームなキャンプだったからです。
- ⑥安心感を与え、その人らしさを大切にできる精神保健福祉士になりたいです。
- ⑦たくさんの活動を通して、子どもたちと共に成長していきたいです！